


白鳳時代に創建された賀陽氏の氏寺
栢寺廃寺跡



指定区分	県指定史跡
読みかた	かやでらはいじあと
所在地	総社市南溝手
指定年月日	昭和62年4月3日
解説	<p>白鳳時代に創建された寺院。寺域は東西約1町、南北約1町半の広さと推定される。塔の位置や規模は判明したが、他の建物については明らかになっていない。白鳳時代から平安時代までの7種類の瓦が出土しており、寺の存続期間を知ることができる。瓦のうち1種類は広島県三次市寺町廃寺と同じ型で作られており注目される。寺はこの地の豪族賀陽氏によって造営されたと考えられており、備中南部の古代豪族の動向を示す資料である。この廃寺跡には江戸時代に浄土宗の賀陽山門満寺が再建されていたが、昭和59年に撤去された。</p>
アクセス方法	JR吉備線：服部駅から約1km。
公開状況	
設備	<p>「総社市埋蔵文化財学習の館」駐車場(徒歩5分)</p> 
備考	<p>「総社市埋蔵文化財学習の館」がすぐそばにある。ここでは製鉄関連の遺跡や鬼ノ城に関する展示がある。(問:0866-93-8071/無料/土日祝休館)</p>

きつずページ



していくぶん (指定区分)	県指定史跡
ぶんかざいめい (文化財名)	栢寺廃寺跡
よみかた	かやでらはいじあと
しょざいち (所在地)	総社市南溝手
していたひ (指定した日)	昭和62年4月3日
せつめい	7世紀(せいき)おわりごろから8世紀はじめごろの白鳳時代(はくおうおじだい)に建(た)てられたお寺(てら)の跡(あと)です。備中国(びっちゅうこく)で勢力(せいりょく)をふるっていた賀陽氏(かやし)一族(いちぞく)の寺(てら)だったと考(かんが)えられています。今では当時(とうじ)の塔(とう)の心柱(しんばしら)を受けた大きな石、それから江戸時代(えどじだい)には建(た)てられたお寺の門やお堂(どう)が残(のこ)っています。